

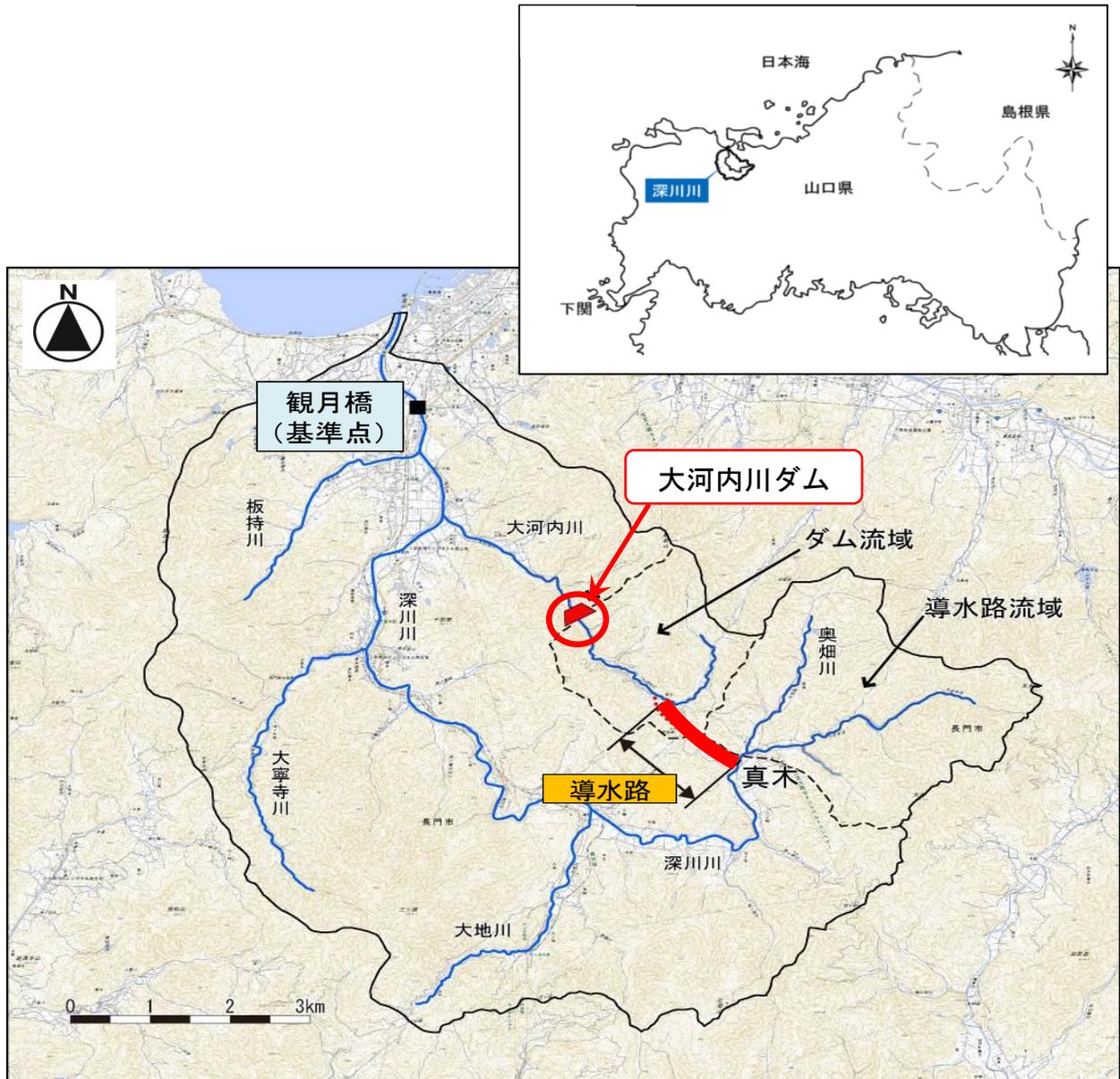
再評価項目調書

再評価実施要件		○ 事業採択後 ( ) 年 ● 再評価後 ( 5 年 ) ○ その他 ( )				
1 事業 概要	事業名	大河内川ダム 深川川総合開発事業				
	事業場所	長門市深川湯本				
	事業主体	山口県				
	事業期間	《 前回評価 令和 元 年 時 》 平成 2 年度 ~ 令和 11 年度 《 令和 11 年度 》 ( 西暦 1990 年度 ~ 西暦 2029 年度 《 西暦 2029 年度 》 )				
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 24,000 百万円 ≫ 24,000 百万円 ( 1,753 百万円 )	既投資額 (内用地補償費)	14,422 百万円 ( 1,733 百万円 )	進捗率 (用地補償費)	60 % ( 99 % )
	事業目的	<p>深川川は、長門市に位置し、その源を美祿市の境に発し山間部を西流し、途中大地川、大寧寺川、大河内川等と合流しながら流下し、長門市を貫流して日本海に注ぐ、流域面積67.2 km<sup>2</sup>、流路延長16 kmの二級河川である。なお、中流域には「湯本温泉」があり、長門市の観光の拠点となっている。また、長門市の市街地は河口部に形成されている。</p> <p>深川川流域は、昭和26年のルース台風や昭和29年の洞爺丸台風などにより甚大な浸水被害を受けており、近年では、平成11年の梅雨前線豪雨において被害が発生している。また、河川水は古くからかんがい用水や水道用水として利用されているが、昭和42年、昭和48年等に、深刻な濁水被害が発生している。</p> <p>これらのことから、深川川の「浸水被害の軽減」、「流水の正常な機能の維持」、「水道用水の確保」を目的として大河内川ダムを建設する。</p> <p>なお、深川川本川にダムの適地がないことから支川大河内川にダムを建設し、深川川から大河内川に導水路を整備することとしている。</p>				
事業内容	<p>《大河内川ダム》形式：重力式コンクリートダム 堤高：62.0m 堤頂長：155.0m 総貯水容量：4,190千m<sup>3</sup> 集水面積：12.4 km<sup>2</sup> (直接：4.0 km<sup>2</sup> 間接8.4 km<sup>2</sup>) 《導水路》 延長：1,540m 径：7.2m 形式：標準馬蹄形 勾配：1/342 《付替道路》 延長：6.6 km</p>					
事業効果	<p>(1) 洪水調節 治水基準点(観月橋)において、基本高水流量780m<sup>3</sup>/sのうち110m<sup>3</sup>/sの洪水調節を行う。</p> <p>(2) 流水の正常な機能の維持 ダム下流の既得用水の安定取水、動植物の生息・生育環境の保全、河川景観の保持等に必要流量として、利水基準点(観月橋)において0.35m<sup>3</sup>/sを確保する。</p> <p>(3) 水道用水の確保 長門市の水道用水として、新たに日量1,000m<sup>3</sup> (0.012m<sup>3</sup>/s) を確保する。</p>					
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化	<p>浸水区域に関する指標のうち、人口、世帯数は前回評価時と比べ、同水準であるため、治水対策の必要性は依然として高い。 【浸水区域に関する指標の変化(国勢調査)】 《深川地区ほか》 ○人口：0.92倍(7,906/8,593人) &lt;R2/H27&gt; ○世帯数：0.96倍(3,576/3,725世帯) &lt;R2/H27&gt; 《参考：県全体》 ○人口：0.96倍(1,342/1,405千人) &lt;R2/H27&gt; ○世帯数：1.00倍(599/597千世帯) &lt;R2/H27&gt;</p>		中項目評価	大項目評価	
	関係市町及び地元の意向	<p>当該事業は、学識経験者、地域住民代表者、河川利用者の代表者、関係地方公共団体の長から構成される「深川川川づくり検討委員会」で了承されている。 また、これまでの度重なる浸水被害や濁水被害を受け、当該事業に対する地域住民からの要望は強い。</p>		中項目評価	大項目評価	

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年：R元)</th> <th colspan="2">今回(再々評価) (基準年：R6)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td>6,856</td> <td>11,221</td> <td>11,221</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>11</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td>11,613</td> <td>9,070</td> <td>9,070</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td>24,365</td> <td>32,351</td> <td>4,967</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>42,847</td> <td>52,653</td> <td>25,269</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>30,537</td> <td>39,209</td> <td>7,869</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>262</td> <td>324</td> <td>324</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>30,799</td> <td>39,533</td> <td>8,192</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比 (B/C)</td> <td>1.4</td> <td>1.3</td> <td>3.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>○治水経済評価マニュアル(案) 令和6年4月 国土交通省水管理・国土保全局</p> <p>①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事業所、農漁家の資産被害額</p> <p>②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額</p> <p>③公共土木施設等被害軽減便益：整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額</p> <p>④その他便益：施設の残存価値、整備により軽減される営業活動停止損失および応急対応にかかる費用</p>	区分	主な項目	前回 (基準年：R元)	今回(再々評価) (基準年：R6)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	6,856	11,221	11,221		②農作物被害軽減便益	12	11	11		③公共土木施設等被害軽減便益	11,613	9,070	9,070		④その他の便益	24,365	32,351	4,967		総便益	42,847	52,653	25,269		費用 (C)	①事業費	30,537	39,209	7,869		②維持管理費	262	324	324		③その他	0	0	0		総費用	30,799	39,533	8,192		費用便益比 (B/C)		1.4	1.3	3.1		大項目評価 A ・ B ・ C
	区分	主な項目	前回 (基準年：R元)			今回(再々評価) (基準年：R6)		備考																																																										
			全体事業	全体事業	残事業																																																													
	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	6,856	11,221	11,221																																																													
②農作物被害軽減便益		12	11	11																																																														
③公共土木施設等被害軽減便益		11,613	9,070	9,070																																																														
④その他の便益		24,365	32,351	4,967																																																														
総便益		42,847	52,653	25,269																																																														
費用 (C)	①事業費	30,537	39,209	7,869																																																														
	②維持管理費	262	324	324																																																														
	③その他	0	0	0																																																														
	総費用	30,799	39,533	8,192																																																														
費用便益比 (B/C)		1.4	1.3	3.1																																																														
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>令和5年度末までに付替道路の全体延長6.6kmのうち5.6kmが完了しており、付替道路の進捗率は約85%に達している。 ダム本体工事の着手に向け、引き続き計画的に付替道路の進捗を図る。</p> <p>【事業費の変化】 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/></p> <p>【事業期間の変化】 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/></p>	大項目評価 A ・ B ・ C																																																															
	コスト削減	<p>ダム本体コンクリートの骨材について、当初計画では原石山からの採取としていたが、近隣の採石業者と調整を行ったところ、安定した供給が可能であることが確認できたため、購入骨材と原石山からの採取について再度比較検討を行った結果、経済性で有利な購入骨材に変更することでコストの削減を図る。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">中項目評価</td> <td style="width: 50%;">大項目評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a・b</td> <td style="text-align: center;">A ・ B ・ C</td> </tr> </table>	中項目評価	大項目評価	a・b	A ・ B ・ C																																																											
中項目評価	大項目評価																																																																	
a・b	A ・ B ・ C																																																																	
(4) コスト削減 代替案等の可能性	代替案	<p>ダム事業の検証において、治水と利水の目的別に、コスト、実現性等の観点から、ダムとダム以外との代替案の比較・検討を行い、総合的に評価を行った結果、「大河内川ダム+導水路+河川改修案」である現計画案が最適であることを確認している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">中項目評価</td> <td style="width: 50%;">大項目評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a・b</td> <td style="text-align: center;">A ・ B ・ C</td> </tr> </table>	中項目評価	大項目評価	a・b	A ・ B ・ C																																																											
	中項目評価	大項目評価																																																																
a・b	A ・ B ・ C																																																																	
3 環境	配慮事項	<p>工事中については、濁水処理施設を設け、濁水を下流へ流さない等の対策をとることにより河川環境等への影響の低減に努める。 また、供用後については、選択取水設備を設けることにより、水温や水質に配慮した放流を行う。</p>																																																																
4 対応方針 (事業実施主体)	総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し継続 <input type="radio"/> 中止																																																																
	評価理由	浸水被害や濁水被害の軽減を図るため、事業継続が妥当と判断する。																																																																
	備考																																																																	

おおこうちかわ  
大河内川ダム 深川川総合開発事業

位置図



(完成予想図)

